

# 研 究 紀 要

第 2 6 集



平成 1 2 年 3 月

群馬県小学校中学校教育研究会視聴覚教育部会

# 目

# 次

平成 1 1 年度の主な事業・行事	-----	2
はじめに	-----	3
夏季特別研修会	-----	4
第 2 6 回群馬県学校視聴覚教育研究会「伊勢崎大会」開催要項	-----	8
伊勢崎市立南小学校の実践	-----	10
伊勢崎市立第一中学校の実践	-----	16
全体会 実践発表	-----	19
指導講評	-----	22
視聴覚教育部会のあゆみ	-----	23
視聴覚教育部会規約	-----	28
理事名簿	-----	30

## 平成 1 1 年度 主な事業・行事

月 日	主な事業・行事名	会 場
6 月 3 日	理事総会	生涯学習センター
8 月 3 ・ 4 日	第 50 回 放送教育研究会全国大会 P A R T 1	東京都総合技術センター
8 月 5 日	夏季特別研修会	前橋市総合教育プラザ
9 月 10 日	第 1 回 常任理事会	上毛会館
10 月 1 日	関東甲信越地方放送・視聴覚教育研究大会 「新潟大会」	新潟県糸魚川市他
11 月 11 日	第 26 回 群馬県学校視聴覚教育研究会 「伊勢崎大会」	伊勢崎市立南小学校 伊勢崎市立第一中学校
11 月 12 日	第 50 回 放送教育研究会全国大会 P A R T 2	東京都武蔵野市 桜野小学校
11 月 25 ・ 26 日	第 3 回 視聴覚教育総合全国大会	愛知県勤労会館他
2 月 18 日	第 2 回 常任理事会	前橋市総合教育プラザ

### 研究紀要等の執筆

- ・ 県視聴覚教育部会                      研究紀要第 2 6 集
- ・ 県教育研究会                            研究紀要第 3 5 号
- ・ 県視聴覚ライブラリー                群馬の視聴覚教育第 3 4 号
- ・ 県教育研究会会報

# は じ め に

部会長 光安 昭

西暦2000年を迎え、新たな時代の到来が予感されます。社会の情報化が急速に進展し、インターネットの高速通信網も整備されはじめ、政治・経済をはじめ、教育においても変革が生じてきました。その端末であるコンピュータの性能は、近年、急速に向上し、計算機能、グラフィック表示機能等、そして、ユーザーインターフェイスが大幅に改善され、家庭にも普及してきました。そのため、コンピュータは特殊なものではなく、身近な機器として認識されるようになってきました。また、コンピュータ新整備計画により、小・中学校への整備も充実したものになりつつあり、インターネットへの接続校も増えてきました。そのため、教育におけるコンピュータを教育機器のひとつとして活用がされるようになってきました。

新学習指導要領（小・中は平成14年度から実施）でも、すべての児童生徒に情報活用能力を育成することを盛り込んでおり、小・中・高等学校段階を通じてコンピュータ等を積極的に活用していくこととなっています。中学校では技術・家庭科で「情報とコンピュータ」として必修となり、高等学校では新教科「情報」が設けられたのはじめ、特殊教育諸学校では、小、中、高等学校に準ずるほか、盲学校において情報機器の活用が明確に位置づけられてきています。また、今回の改訂のポイントでもある総合的な学習の時間では「情報」は重要な要素として取り上げられており、情報教育の必要性が高まってきております。情報の収集の場面はもちろん、まとめ段階でも、VTR、OHP、録音機器、デジタルカメラなどの視聴覚機器の活用が予想されます。また、これらの活動は児童・生徒が主体者として行われるため、従来の教師中心の視聴覚機器の利用だけでなく、児童・生徒中心の利用が行われていくことと思われまます。

このような背景のため、視聴覚教育においても、情報機器のもつマルチメディア機能や通信機能などが注目され、欠かせないものとなってきました。そこで、本部会の長い歴史や実績を引き継ぐとともに、時代の変化に対応し、より幅広い活動を行うために、本部会の名称を平成12年4月より、「情報教育部会」へと名称変更を行うこととなりました。

情報化社会を生きていくためには、危険をさけたり、モラルを身につけていくことは欠かせません。また、情報というと機器に目を奪われがちですが、コミュニケーションツールとしての役割も大きく、人と人が交流するための手段という見方もできます。人と人との交流には、心と心の触れ合いがあるため、情報教育の推進においては「こころの教育」も重要な要素となると考えております。

本部会としては、これまでの実践を参考にするとともに、県内の実践を紹介したり、教職員のリテラシー向上のための講習会等を開催したりし、情報教育の推進を図っていきたいと考えております。



の情報化を進めるために保健室、進路指導室、職員室等にも設置する計画がある。ソフトウェアの整備計画も教育用コンピュータ整備計画に合わせて計画されている。

### (3) インターネット接続計画

すべての学校をインターネットに接続することを目標に平成13年度までにすべての中・高等学校、特殊教育諸学校、平成15年度までにすべての小学校の接続を計画している。

平成14年度から新教育課程が実施され、接続の要望及び接続率が急速に向上することが予想されたため、ネットワーク拠点の整備が必要となってきた。そこで、各都道府県教育センターを教育用ネットワークの拠点として整備し、接続計画の早期実現への支援が行われている。当面の目標として、生徒用コンピュータ全部への接続は困難な状況にある学校も多いため、1台だけでも接続できることを到達目標としているといわれている。

### (4) 学校の情報化

これまでは、コンピュータの基本操作の習得などの一斉指導を中心に行われてきたため、コンピュータ教室などに集中型の配置を行うことが多かった。しかし、各教科や総合的な学習においては普通教室などへの分散型の配置が適しているため、1教室への集中型に加え、分散型配置を追加するか、移動が容易なタイプの機種を整備していくことが必要となってきた。

分散配置においては、学習の目的に応じてコンピュータ教室、普通教室、特別教室、多目的スペース、学校図書館などへの多様な配置、あるいはそこに移動させて利用できる環境整備を行っていくことが望ましいと考えられる。さらに必要な場所に情報コンセントと呼ばれる電源と校内LAN用の情報端末を設置していき、校内LANを構築することによって、インターネット利用を学校内のどこからでも可能にすることができる。また、廊下などにも情報コンセントを設置し、掲示板等としてコンピュータを利用している学校もある。

また、コンピュータの活用は学習のためだけでなく、学習指導計画・学校行事の立案や学校経営等のためにも必要である。特にインターネットでは、最新の文部省の情報や様々な先進校の実践内容などを知ることができる。このようなことを踏まえて、今後は、保健室、教育相談室、進路指導室、職員室・事務室等へのコンピュータの配備やLAN環境・インターネット利用環境の整備を進める必要がある。

### (5) 指導体制の充実と情報化への支援

すべての教職員にコンピュータ等の操作能力・指導力を育成することが望まれており、大学での教員養成段階におけるカリキュラムの改善も行われ、平成12年度から「情報機器の操作(2単位)」(仮称)を必修化したり、高等学校の新教科「情報」担当教員を計画的に養成されている。また、国・都道府県等・学校において情報化に対応し、情報化推進のための研修を計画されている。

現在、コンピュータの導入が急速に進められている小学校を中心に研修の需要は多く、対応に苦慮することも多い。しかし、その反面、コンピュータの研修に消極的な教職員も少なくなく、社会状況、生徒の実態からの立ち後れが懸念されている。校長のリーダーシップにより情報化に対応した校内体制や校内研修、学校の情報教育担当者等を中心とした日常的な研修が重要であるが、まず、担当者以外の目に触れないような特定の部屋にコンピュータを閉じこめたりせず、校内LAN・インターネット接続などの環境整備を整え、身近で親しみやすいものとしていくことが大切である。

学校の情報化支援のための体制が整備されつつあり、各都道府県教育委員会の教育事務所及び教育センターに学校の情報化を支援する人材（情報化推進コーディネータなど）を配置したり、リストラされた外部人材などの活用が検討されている。また、教育センターに設置されているソフトウェア・ライブラリーセンターでは、購入ソフトの試用、相談を行うことができる。

コンピュータ等の機器の導入で予算確保が難しいことが多く、DOSマシンが導入されたまま更新されない学校などでは、家庭や企業で不要になったWindowsマシンを寄付してもらうなどしている学校もある。校内LANを構築する際、配線工事には多くの費用がかかり、メンテナンス・運営には様々なノウハウが必要である。しかし、専門的な技術を身に付けた教職員は数少ないため、たとえ校内LANが整備されたとしてもその機能を活かした利用は難しい学校が多い。そこで「ネットデイ」と呼ばれる地域ボランティアと学校の教職員を中心とした学校に対するネットワーク展開支援活動が行われ、ネットデイが実施された学校はすでに全国で100校以上にのぼっているといわれる。

#### （6）今後の学校における情報システムの利用

子供たちの学習活動をより主体的・創造的なものにしていくために、子供たちによる学習成果の発表などを積極的に取り入れていくことが望まれる。コンピュータを利用して行うには、デジタルカメラなど、画像や動画、音声、音楽などの入出力装置を整備する必要がある。また、プレゼンテーション用のプロジェクターや大型TVに出力するための周辺機器も整備し、充実化を図っていくことが望まれる。学習成果のまとめにおいては、デジタル機器を利用して発表資料等を作成することにこだわる必要はないが、それを手軽に閲覧できる形式で保存したり、インターネットで情報を発信したりする際には、デジタル化は不可欠であるため、手書きの図などを取り込むスキャナーや大量のデータを保存する記憶メディアなどの利用ができるようにしていくことが望ましいと考えられる。

また、学校の情報システムを作り上げていく際、コンピュータ機器を単に増やしていったり、一斉に更新していったりするのではなく、その活用目的に沿っていつでも簡単に使え、必要な機能と性能が満たせるような全体を一つのシステムとして整備していくことが大切である。予算上等の制約により、一度にすべての整備や機器の更新が行えなくても、徐々にシステムアップが図られるような計画的整備を行っていくことが望ましいと考える。行政の教育予算もある

程度の見通しが必要であるため、ハード・ソフトの更新を定期的に行っていけるような体制づくりが必要である。また、通信費・消耗品などの予算の確保も情報システムを活用していく上で不可欠である。

#### ( 7 ) インターネットの利用

インターネットへの接続には、一般的にはプロバイダというインターネット接続サービスを行うところと通信回線で接続する必要がある。学校は民間の会社や県総合教育センターに申し込むことでインターネット接続することができる。その場合、申し込み手続き後、普通の電話回線（アナログ）やISDN回線をコンピュータに接続して、指定された通りにコンピュータの設定を行うこととで接続できる。

民間のプロバイダを利用する場合は、利用時間・サービス・接続ポイント等を検討し、契約形態や会社を選択する必要がある。また、接続に使う通信回線も、アナログ電話回線、ISDN回線、携帯電話・PHS、衛星回線、ケーブルTV、専用回線など様々なものがあります。利用料金も年々下がり、個人でも利用しやすくなってきている。

#### ( 8 ) 実習 ( <http://www2.wind.ne.jp/mow/jou/data/1999.htm> )

インターネットから情報を探しだす方法

- ・サーチエンジンの利用
- ・リンク集の利用

情報の教育における活用方法

- ・教育情報（文部省、県教委等）
- ・授業用参考資料
- ・教材・指導案

電子メールの活用方法

参考となるホームページ

#### ( 9 ) 終わりに

インターネットが身近になり、教育において利用できるように環境整備が整いつつある。それにともない、その環境を生かすことができるように教職員のスキルアップが緊急課題となっている。群馬県では全教職員が2001年度末までにプレゼンソフトを使いこなせ、インターネットや電子メールの使用法を指導できるなどのレベルに到達できるように研修体制を整えるという報道されている。今回は短時間であったため、電子メールやプレゼンソフトの実習を行うことができなかったが、子供たちの学習をより豊かにするためにも研修を行っていく必要がある。



## 第26回 群馬県学校視聴覚教育研究会伊勢崎大会

- 1 主 催 群馬県小学校中学校教育研究会 視聴覚教育部会
- 2 後 援 群馬県教育委員会 伊勢崎市教育委員会 NHK前橋放送局
- 3 大会主題 自ら学ぶ児童・生徒を育成する視聴覚教育の推進  
 ―― よさを生かす効果的な視聴覚教材や機器の活用 ――
- 4 期 日 平成11年11月11日(木)
- 5 会 場 (1)公開授業 ・小学校 伊勢崎市立南小学校  
 ・中学校 伊勢崎市立第一中学校  
 (2)全体会 ・小・中合同 伊勢崎市立南小学校
- 6 日 程

13:30 14:00		14:45 15:10 15:30		16:00		16:20 16:30		
小 学 校	受付	公開授業		会 場 移 動	全 体 会			
	13:15 13:45	14:35	開 会 行 事		実践発表  伊勢崎市立 三郷小学校  関口林太郎 教諭	指導講評  群馬県総合教 育センター  湯澤 幸男 指導主事	閉 会 行 事	
中 学 校	受 付	公開授業		会 場 移 動	全 体 会			
	13:15 13:45	14:35	開 会 行 事		実践発表  伊勢崎市立 三郷小学校  関口林太郎 教諭	指導講評  群馬県総合教 育センター  湯澤 幸男 指導主事	閉 会 行 事	

### 7 公開授業

校種	授業者	学年組	教科等	単元名(題材名)	主な利用機器
小 学 校	石橋 純一教諭 只野あけみ教諭	4年1組	算 数	面 積	TVCCD カメラ
	藤木 聖士教諭	4年2組	国 語	一つの花	TV マイク VTR
	笠原 浩幸教諭	6年2組	社 会	長く続いた戦争と新しい日本の出発	OHP



## 伊勢崎市立南小学校の実践

本校での視聴覚教育の実践は、児童の学習活動における視聴覚機器の効果的な活用を研究してきました。視聴覚教育のとらえかたとして、これからの情報社会における児童の情報リテラシー能力の育成もありますが、以下に挙げる3つの実践では、学習内容の伝達や児童の活動をより効果的に提示するといった視聴覚機器のプレゼンテーション的な活用としてとらえた実践例を紹介します。

### 公開授業

#### 1. 4年国語科

題材名 一つの花

視 点 物語の場面をVTRを使って児童に提示し、情景を想起させることによって、児童は自分の思いや考えを込めてより豊かに朗読することができるであろう。

本時の学習

- ・ねらい 場面絵から情景を想像し、工夫しながら朗読することができる。
- ・準備 授業者・モニター VTR マイク MTR MD CD  
児 童・学習プリント

#### 展開

学習活動	指導上の留意点	評価の観点
1 本時の内容を知る。 (5)の場面 5min	・(5)の場面のVTRを見せて担当児童に読み合わせのタイミングをつかませる。	本時のめあてがつかめたか
2 場面絵と読み合わせで、 朗読のめあてをつかむ。 5min	・VTRと読み合わせ(アフレコ練習)をさせ、自分の読みの気をつける点や友達のアドバイスをもとに朗読の練習をはじめさせる。	意見交換などの活動から、自分の朗読の表現力を高めることができたか。自己評価ができたか
3 朗読の練習をする。 13min	・自分の朗読を友達に聞いてもらったりして、意見交換をさせ、考えを深めたり朗読の表現力を高める。 ・机間支援では、場合によっては教師	

	の助言をする。	
4 朗読の読み合わせ 17min	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの場面絵VTRと読み合わせ、音楽も流し、全体の仕上がりを鑑賞し、感想を述べさせる。</li> <li>・感想については、朗読についてのことを中心のこととするが、それ以外でも物語の意味などの意見も合った場合はそれでも良い。</li> </ul>	
5 本時のまとめ 5min	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は、朗読の録音であることを知らせ、本時のまとめとする。</li> </ul>	

## 2. 4年算数科

単元名 四角形

指導者

視点 ひし形の性質や特徴を発表させる場面において、CCDカメラを用いれば、発表する児童の表現や聞く側の児童の理解をより一層支援できるであろう。

本時の学習指導

- ・ねらい 「ひし形」の性質や特徴がわかる。  
自分の考えを言葉や算数的活動を通して表現することができる。
- ・準備 <指導者> 学習プリント、CCDカメラ、テーブルタップ、カード(掲示用)  
<児童> 三角定規、コンパス、分度器

・展開(概要)

( は視聴覚大会のテーマにかかわること)

児童の活動	教師の支援及び留意点		時間	評価項目
	T 1	T 2		
1 平行四辺形の性質について前時の復習をし、本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を想起させる。</li> <li>・平行四辺形の性質に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時にまとめたカードを発表に合わせ、黒板に掲示する。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を理解している。</li> </ul>

<p>前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 向かい合った2組の辺が平行</li> <li>・ 向かい合った角の大きさが等しい</li> <li>・ 向かい合った辺の長さが等しい</li> <li>・ 2本の対角線が交わった点で2等分される</li> </ul> <p>本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提示された四角形にはどんな特徴があるかを調べていくことが本時の課題であることを知る。</li> </ul>	<p>ついて構成要素などに着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の発表時に不十分な表現があった場合には補足する。</li> </ul> <p>・ 平行四辺形と同じか、どうか、調べようとする意欲を起こさせるような言葉がけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひし形を提示し、平行四辺形とどこが違うのかを考えさせる。</li> <li>・ プリントを配布する。</li> </ul>	<p>(知識・理解)</p> <p>・ 本時の課題をつかみ、意欲をもつことができる。 (関心・意欲・態度)</p>
<p>2 提示された図形について調べ、分かったことをプリントに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 向かい合った2組の辺が平行</li> <li>・ 4つの辺の長さが等しい</li> <li>・ 向かい合った角の大きさが等しい</li> <li>・ 2本の対角線が交わった点で2等分される</li> <li>・ 2本の対角線が垂直に交わる</li> </ul>	<p>・ 三角定規やコンパスなどを組み合わせて使い、平行四辺形と同じかどうか調べさせる。</p> <p>・ 辺や角、対角線などに着目させるように助言する。</p> <p>・ 普段あまり発表できない児童にも自信をもたせ、発表できるように支援する。</p> <p>・ 4の側から机間巡視をし支援する。</p> <p>・ 1の側から机間巡視をし支援する。</p>	<p>1 5</p> <p>・ 思い思いの方法で調べることができる。 (関心・意欲・態度)</p>

<p>3 調べた結果を操作しながら発表する。</p> <p>向かい合った2組の辺が平行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの辺の長さが等しい</li> <li>・向かい合った角の大きさが等しい</li> <li>・2本の対角線が交わった点で2等分される</li> <li>・2本の対角線が垂直に交わる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、T1、T2で見取った結果を情報交換する。</li> <li>・児童の結果を平行四辺形の性質と対比するように板書する。</li> <li>・発表に集中して聞いたり、見たりできるように言葉がけをする。</li> </ul>	<p>CCDカメラを使って児童の操作をテレビに映し出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・露出とカメラの方向に気を付ける。</li> <li>・以下の4つの観点について気づいた児童にそれぞれ発表させる。</li> </ul> <p>辺の平行に着目した児童</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・辺の長さに着目した児童</li> <li>・角の大きさに着目した児童</li> <li>・対角線に着目した児童</li> </ul>	<p>18</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの表現方法で発表することができる。</li> </ul> <p>(表現・処理)</p>
<p>4 ひし形の性質をプリントにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの辺の長さが等しい</li> <li>・2本の対角線が垂直に交わる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行四辺形の性質の他に加わっている性質を見つけさせ、「ひし形」という名前であることを知らせる。</li> <li>・ひし形の性質についてプリントにまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視をし、まとめられない児童の指導にあたる。</li> </ul>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行四辺形との違いを考えることができる。</li> </ul> <p>(数学的な考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひし形の性質や特徴を理解している。</li> </ul> <p>(知識・理解)</p>
<p>5 次時の学習課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は「ひし形」のかき方について学習することを知らせる。</li> </ul>		<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の学習課題を知る。</li> </ul>

3. 6年社会科

単元名 長く続いた戦争と新しい日本の出発

視点

課題解決的な歴史学習において、自ら調べたことをOHPを使って写真や図表、グラフなどに表現することにより、戦争の悲惨さや平和の尊さについて自分なりの考えを持つことができるであろう。

本時の学習

- ・ねらい 戦争中の人々の暮らしは、制約の多いものであったことや、日本の各地が空襲などの被害にあったことなどを聞き取り調査や資料調査などから理解できる。
  - ・準備 コンピュータ、プロジェクタ、OHP、スクリーン、ワークシート
- 展開

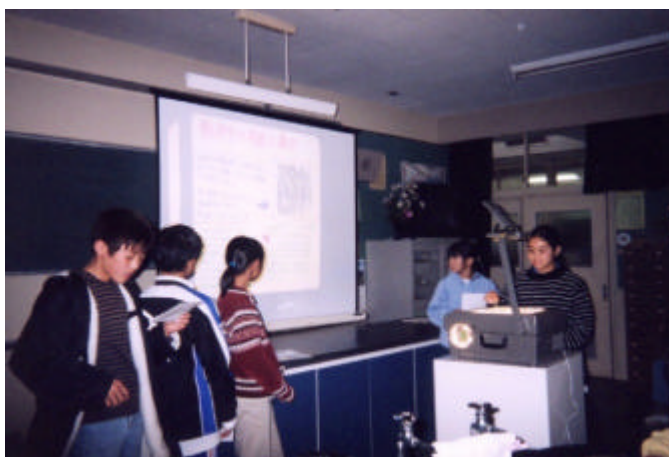
学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	時 間	使用機器等
<p>1. 教師のプレゼンテーションを見て、太平洋戦争に至るまでの流れを確認し、本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">戦争中の人々の生活はどんな様子だったのだろう。</div>	<p>・日本が戦争に至るまでの経緯を教師のプレゼンテーションにより確認する。</p> <p>・戦時中の様子を表す写真（工場で働く子供たち、軍事教練をする子供たち）を見せ、子供がなぜこのようなことをしなければならないかを考えさせる。</p>	10 分	コンピュータ プロジェクタ スクリーン
<p>2. 班ごとに調べてきたことを発表する。</p> <p>発表テーマ</p>	<p>・班ごとに調査したことをOHPを使って発表させる。教師は、発表の補助にあたる。</p> <p>・聞いている子は、ワークシートに必要なことや大切なことをメモしながら聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">・戦時中の学校生活について</div>	25	OHP スクリーン (実物)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦時中の食生活について</li> <li>・群馬・伊勢崎の空襲について</li> <li>・日本軍の外国への侵略について</li> <li>・原子爆弾について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>子供たちの発表内容の不足や時間が余った場合は教師のプレゼンテーションにより、学習の補助とする。</p>	分	<p>パソコン プロジェクト</p>
<p>3. わかったことに対して自分なりの感想を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の予告を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞いて感じたことをワークシートにまとめる。</li> </ul>	30分	ワークシート

#### 評価の観点

- ・戦争の実態を、国民やアジアの人々の苦しみと併せて考えることができる。
- ・調べたことを図や写真などを使って効果的にまとめている。

#### 授業の様子





# 伊勢崎市立第一中学校の実践

## 公開授業

### 1. 3年学級活動

題材名 パソコンで高校訪問をしよう(3) - ア

活動内容 進路適正の吟味と進路情報の活用

#### 題材観

コンピュータが発達し、各家庭にはパーソナル・コンピュータという形で普及し始めてから久しいが、パソコンの波は、中学生の中にも広がりつつあるのが現状である。事実、本学級の生徒の中にも数は少ないものの、E-mailを交換し、積極的に「メール友達」と呼ばれる友人とE-mailのやりとりをしている生徒もいる。パソコンが単なるゲームをするための遊び道具やワープロ代わりといったものにとどまらず、インターネットやE-mail交換にまで進んでいるのが実状である。コンピュータ・ゲーム世代の今の中学生にとって、パソコンに関する知識や様々なソフトの理解、操作についてはまだまだ難しいものの、パソコン本体やキーボードの操作などは、さほどの珍しさを感じずともなく、物怖じせずに取り組んでいけるものと思われる。

生徒は、学級活動によって、あるいは、体験入学や高校説明会などの入試に関する行事によって、様々な情報を得る。そして、自分の夢や希望、成績や親の考えなどを総合しながら、進路を決定していく。しかし、情報を得れば得るほど、新たな疑問や不安が表れ、これで十分、安心であるという気持ちにはなれないようである。

本題材は、パソコンを使って各高校がインターネット上に流しているホームページを調べることにより、今まで知り得なかった最新の情報をつかもうとするものである。技術科によってパソコンの操作方法やパソコンを使うことの利便性、インターネットの意義などを学び、その技術・知識を学級活動の進路学習に活かしていく。さらにチームティーチングによって授業を行うことにより、パソコン操作にとまどいのある生徒や手順が遅れがちな生徒に素早く対応ができると思われる。そして、ホームページで知り得た情報を他の生徒と共有することによって、進路に関する不安や疑問を解消していけるものと思われる。

以上のように、パソコンを導入した進路学習という担任一人では困難と思われる授業をチームティーチングという形態をとることで、役割分担しながら丁寧な指導が行えるものと思われる。そして、生徒自らが必要な情報を選択するという主体的な活動により、高い意識を持って授業に取り組めるものと思われる。

ねらい

コンピュータを利用して主体的に高校についての進路情報を選択することにより、進路適正の吟味と進路に向けての意欲化を図る。

展開

生徒の活動	指導上の留意点		時間 (分)	機器・資料
	T 1 (担任)	T 2		
クラスの仲間の現在の進路希望の実態について聞く。	進路希望についての調査結果や今後の状況について説明する。	Lnet (室内 LAN) を利用して分かりやすく説明する。	10	
各自が興味ある高校のホームページを閲覧する。 (注意事項については印刷したり、メモを取ったりする。)	有益な情報を見つけたり、疑問点を見つけるよう説明する。 収集した情報量が少ない生徒に対して、さらに詳しい情報を得られるようアドバイスする。	ホームページの閲覧の仕方について説明する。 生徒全員がスムーズに閲覧できるよう、事前に主な高校のホームページについてはダウンロードしておく。	15	
興味をもったり、参考になったりしたこと、さらに詳しく知りたいことなどをコンピュータに入力する。 入力したファイルを先生のコンピュータに送信する。		コンピュータへの入力の仕方と先生への送信の仕方を説明する。  操作について手間取っている生徒に対し、机間指導をしながら個別指導する。 できる限り多くの意見が書けるよう文	15	

		字入力については仮名のみでもよいことを伝える。		
意見や感想を発表する。	送信された内容を見て、生徒にフィードバックしながら、今後の進路に向けての意欲化を図る。	参考になりそうなホームページを紹介するなどして、パソコンを用いた情報収集の有効性について知らせる。	10	

#### 評価項目

興味のある高校のホームページから有益な情報を選択・収集することができる。

選択・収集した情報を自分なりにまとめて、教師のパソコンに送信することができる。

#### 授業のようす



## 「学習活動におけるデジタルカメラの活用」

伊勢崎市立三郷小学校 関口林太郎

### 1. 研究の概要

#### (1) 研究のねらい 情報リテラシー育成の必要性

現在、私たちを取り巻く世界はすさまじい勢いで高度情報化社会・高度インターネット社会として変化しつつあります。小学生が自分用の携帯電話を持ち、塾への送り迎えに親と連絡を取り合ったり、社会の調べ物をインターネットで検索してカラー印刷し、はては年賀状を e-mail で送りあう。これらは実際に今の小学校でみられる光景です。

今後、ますます複雑に発展していくであろうこの情報の氾濫する世界において、その時代の担い手たる児童・生徒たちがどのようにしたら適切に情報を選択していくことができるのか。教育現場ではこの情報を活用する能力、つまり「情報リテラシー」の育成が今まさに必要とされているものと考えられます。

ここで視聴覚教育、来年度からは情報教育と呼称も変わりますが、においてその核となる「情報リテラシー」について触れておきます。

### 《情報リテラシー》

情報を探す能力・・・無数にあふれる情報の中から、自分が必要とするものを的確にさがしだせる能力。インターネット上で言うとヤフー、g o oなどのサーチエンジンをつかいこなして欲しい情報を素早く手に入れることなど。

情報を選ぶ能力・・・入手した情報の中から自分にとって必要な物を正しく選択できる能力。

情報を創り伝える能力

・・・探し選んだ情報を組み合わせ、考察し、他者へと発信できる能力。

この情報リテラシーを子供たちに育てていくためには、指導する我々教師の側にもその能力が求められることは言うまでもありません。本研究では児童に情報教育をすると同時に、教員側も校内研修の場を通して、どのような場面で情報教育機材が児童の学習に有効であるかを検討しつつ、すすめるものであります。

## (2) 研究の内容 教育現場で情報教育機材をどのようにいかすか

本校の情報教育機材とそれによる情報教育はなにができるかを考える。

コンピュータ：デスクトップ3台（DOSマシン）、ノート1台（Win98）

周辺機器：デジタルカメラ6台、カラープリンタ2台、スキャナ1台

DVカメラ2台、ビデオプリンター1台

以上の設備で 1.映像（ビジュアル、グラフィックス）

2.音（音声、音楽）

3.文字（テキスト）の指導をどの場面において

活用していけばよいかを考えてみます。なかでも本校では、デジタルカメラが6台と児童の班活動にも十分用いることが可能な台数が整備されており、さらに中学年以上の児童ならば、簡単な説明を受ければ自分だけでも機器を用いて、情報の収集が可能です。よって本研究では、デジタルカメラの活用を中心に情報リテラシーの育成を図るものとします。

## 2. 実践紹介 情報リテラシーの育成～児童&職員の両面で

### 教師側の研修

- スキャナー&カラープリンタ - の使い方 …… H10年度
- デジタルカメラの学習への活用紹介 …… H11/03
- NTTインターネット講習会（第1回） …… H11/08
- ビデオプリンター&コンバーターの使い方 …… H11/09
- NTTインターネット講習会（第2回） …… H11/10

～NTTインターネット研修については、教職員を対象に広くインターネットを用いた情報検索の実践的活用方法を、企業の地域社会への還元事業の一環として行われているものを利用。コンピュータ室の解放と営業の方による実践的講義が、全くの無料で受けられるので、是非活用されてはと思います。詳細はNTT伊勢崎営業所へ。

### 児童への情報教育

0120-190117

#### (1) 授業

##### ・5年理科 ヘチマの観察

班ごとにデジタルカメラをもたせ  
ヘチマの生長の様子を撮影。

葉・茎・花・実の作りを教室の  
TV画面で詳しく観察。

カラー印刷して模造紙に貼りだし、  
1年間の生長の記録を自分たちの



写真で綴る。

・ 6年理科 大地のつくり

地域の身近な場所にみられる地層をデジタルカメラで撮影し、教室のTV画面に映し出し詳しく観察。

・ 4年社会 雪国の暮らし

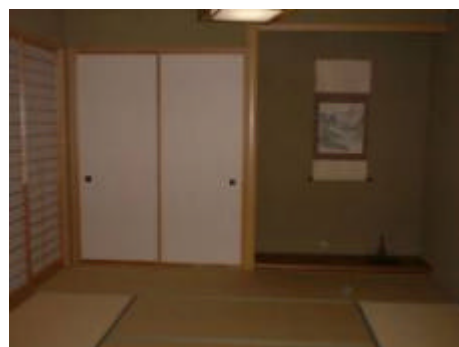
教師が新潟で、スノーシェルターや消雪パイプをデジタルカメラで撮影し、カラープリンターで大きく印刷。理解に役立てる。

・ 6年社会 室町の文化

現代に残る室町・東山文化を児童がそれぞれの家庭で探す。

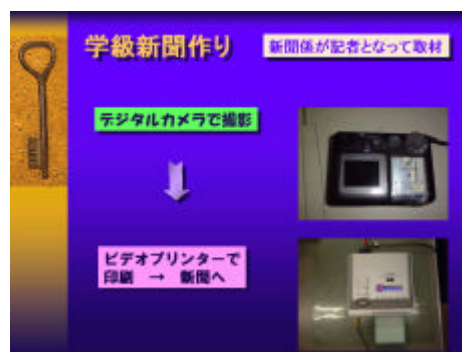
班ごとにデジタルカメラで各家庭にある、障子・床の間・畳・墨絵・違い棚を撮影。

プリントアウトし、まとめ新聞を作成、掲示。



(2) 学級活動(学級新聞作り)

新聞係がその月の話題を、デジタルカメラをもって取材。デジタルカメラからビデオプリンターで直接印刷。学級新聞に載せる。(情報の創造)



(3) 委員会活動(広報委員会)

学校行事を広報委員の児童がデジタルカメラで取材。お昼の放送でニュースとして流す。(情報の発信)

(4) ホームページ

**情報の発信**：学校行事や活動の他に、クラスのページとして学級新聞や学習コーナー等、児童が集めた情報や創った情報を発信できる場所とする。

**情報の収集**：学習に役立つ情報を検索できるホームページをあらかじめまとめておき、児童・教師の両方が使いやすいようにページにしておく。



三郷小ホームページ：<http://www.edu-c.pref.gunma.jp/gakko/syo/iskmsts1/>

## 指導講評

群馬県教育委員会総合教育センター  
教育情報課 指導主事 湯澤 幸男 先生

日本における視聴覚教育の始まりは映画であったといわれている。戦後、アメリカ政府は、映画を通して、民主主義を日本人に教えることが目的だったらしい。また、ソビエト連邦によるスプートニク打ち上げにより、教育界もまた効率化の波に飲み込まれ、視聴覚教育は、『教育の効率化』を担う1手段として進展してきた。視聴覚教育は、「分かりやすさ」「百分は一見に如かず」などの観点から『教育の効率』を高めるものといわれてきた。また、その点が視聴覚教育の『核』となるべきところなのではないか。

### 算数科の授業（小学校）について

教師がCCDカメラを用いて、児童のノートをその場でモニターに映し出すことによって、他の児童にも「分かりやすく」、また、他者から認められることで、その児童の自信となる。自己実現が図られるということは、意欲的な学習につながると思う。

### 国語科の授業（小学校）について

アフレコや映像加工・編集技術は、まさに職人技の域である。教材作成に使ったパソコンやソフトなど1部高額なものがあり、自己負担であると思う。行政に関わる立場としては、視聴覚教育におけるソフト・ハードの充実は今後の課題であると思う。また、授業中に使用されるキャラクターや音楽などの著作権に関わる問題については、公的な場（公開授業等）での使用や規制があるもの以外は、概ねクリアできていると考えている。

### 社会科の授業（小学校）について

児童が授業中の発表に使用したOHPの手軽さを改めて実感した。コンピュータでは、児童に自由に操作させることが今の段階では困難であるが、OHPでは児童でも簡単に扱えることが利点である。

### 学級活動の授業（中学校）について

総合教育センターのホームページを通して、様々な高等学校の情報を取り寄せることで、各生徒の進路に対する意欲を高めていた。群馬県内のすべての公立高校についてホームページが開設されているので、是非活用して欲しい。

情報機器は視聴覚教育の『核』ではあるが、あくまでも教育の1手段である。そして、児童・生徒が情報機器を手段として使用（情報リテラシー）し、その学習活動の中から本質を学ぶことが肝要であろう。



## 視聴覚教育部会のあゆみ

年	月	日	会 場	研 究 主 題	講 師	参加 人数
49			(利根郡新治中) 富岡市一之宮小 学校 下仁田町東中	教授学習の過程の改善をめざして 具体的題材をとりあげ、T P 作成の 実技放送教材検討などを中心に実践 的な研究を深める。 教育の効率化をめざし、視聴覚教 材および教育機器を活用して学習指 導の改善をはかる。	東邦大学教授 沼野 一男	
50	8 . 7	~ 8	草津町 草津小学校	学習の個別化と効率化をめざし視 聴覚教材ならびに教育機器を活用し て学習指導の改善をはかる。	筑波大教授 大内 茂男	
51	8 . 9	~ 10	(榛名湖 レークピラ) 吾妻郡長野原町 立第三小学校 10 . 22 中学校	学習の個別化と効率化を目指し AV 教材の効果的活用の研究により 学習指導の改善をはかる。 視聴費教材活用による学習の効率 化をはかる。	湖北短大教授 有光 成徳 神奈川大教授 小池 米一	120
52	8 . 9	~ 10	(榛名湖レーク ピラ) 10 . 28 太田市立 鳥之郷小学校 中学校	視聴覚教材の特性を生かし、授業 の効率を高め、ひとりひとりの力を 伸ばす学習指導のあり方を求めて。 放送の特性を生かし、ひとりひと りの力を伸ばす教育をめざして授業 の効率を高めるための指導法の研究 (教育機器を使って)	全小放事務局次長 和田 泰輔 竹早教育養成所長 松付 謙	143
53	8 . 8		(前橋上毛会館) 前橋立若宮小学 校 芳賀小学校	児童生徒の学習意欲を高め、指導 の効率化をはかるための教育機器の 活用 VTR の効果的活用による指導法 の改善 = 児童の学習意欲を高め指導 の効率化をはかる = 積極性を高める学習指導の研究 = 学習習慣の定着をめざして =	前橋市教育長 金井 博之	96



年	月	日	会 場	研 究 主 題	講 師	参加 人数
54	8 . 10		(前橋上毛会館) 鬼石町立 三波川西小学校 鬼石中学校	児童生徒の学習意欲を高め、指導 の効率化をはかるための教育機器の 活用	放送文化放送学研 究室主任 佐藤 和彦	127
55	8 . 6		(前橋上毛会館)	教育課程の改訂に際し視聴覚教材 の果たす役割をたしかめ授業のねら いに即した視聴覚教材利用の日常化 を図る。	県教育義務教育課 長 佐藤 清治	
	11 . 14		渋川市立 北小・渋川中	同 上		
56	8 . 7		(勢多郡富士見 村立 白川小学 校)	小中学校児童生徒に習得させるべ き事項に応じて視聴覚教材の特質を 生かした学習指導をいかに進めたら よいか。	駒沢女子短大教授 神山 順一	130
	11 . 25		館林市立 第二小学校 多々良中学校	視聴覚の果たす役割をたしかめ、 授業のねらいに即した視聴覚教材利 用の日常化を図る。	NHK 前橋放送局 生方 文彦	
57	8 . 5		(勢多郡富士見 村立中央公民ね 館)	確かな学力を育てるために授業の ねらいに即した視聴覚教材をどのよ うに活用したらよいか考え学習指導 の改善を図る。	早稲田大教授 高橋 勉	200
	11 . 17		勢多郡黒保根村 立黒保根小学校 黒保根中学校	視聴覚教材の果たす役割をたしかめ 授業のねらいに即した視聴覚教材利 用の日常化を図る。	学視連顧問 高萩竜太郎	41
58	8 . 12		(高崎市立 第六中学校)	授業の中に放送教材をどのように 取り入れたらよいか。	所沢市立新井小 数頭 本沢 達雄	
	11 . 4		富岡市立富岡小	同 上		
59	8 . 10		(高崎市立 塚沢小学校)	生涯学びつづける心豊かな人間の 育成をめざして、放送機材をいかに 活用したらよいかを究明しよう。	放送文化調査研究 所主任 石野博史	
	10 . 18 ~ 19		高崎市立南小、 西部小、寺尾中 八幡中、富岡市		放送大学教授 加藤 秀俊	

年	月 日	会 場	研 究 主 題	講 師	参加 人数
60		市立富岡小、富岡中、甘楽町立福島中			
61	8.5 ~6  11.22	(水上町去来荘)  白川村立白川小 白川中	生き生きした学習を展開するため必要なメディアや教育方法を取り入れることによって十分な教育活動を推進しよう。  視聴覚教材を効果的に活用した授業のあり方。	松下視聴覚教育 研究財団企画室長 平林 静男 県教育センター教 科研修課長 空井 淳	47  113
62	8.4 ~5  10.15	(水上町去来荘)  桐生市立相生小 境野中	生き生きした楽しい学習を展開するため必要なメディアや教育方法を取り入れることによって教育活動を豊にしよう。  わかる授業を展開するための視聴覚教材・教具の利用	東京学芸人学教授 多田 俊文  県教委 指導主事	68  265
63	8.7 ~8  10.15	(水上町去来荘)  前橋立桃井小 第一中	豊かな人間性を育てるために、視聴覚教材を積極的に活用しよう。  視聴覚教材を効果的に活用した授業のあり方	放送文化調査研究 所 小平さち子 又部省 視学官 瀬戸 真	70  340
64	8.9  11.8	(前橋市・県生涯学習センター)  碓氷郡松井田町 立細野小・北小	生き生きした学習を展開するため、必要なメディアや教育方法を取り入れることによって教育活動を豊かにしよう。  視聴覚教材・教具を効果的に活用した授業のあり方	前橋市教育研究所 長 藤澤 守夫  前・全国放送教育 研究会副会長 西村 文男	90  200
1	8.4  11.22	(前橋市・県生涯学習センター)  吾妻郡長野原町 立中央小学校 東中学校	生き生きとした学習をするため必要なメディアや教育方法を取り入れることによって教育活動を豊かにしよう。  「学力向上をめざした視聴覚機器・教材の活用」 - 生き生きと活動する児童・生徒の育成と授業改善に着目して -	NHK 放送文化調 査研究所 野崎 剛 -	80  200

年	月 日	会 場	研 究 主 題	講 師	参加 人数
2	8.3	(前橋市・県生涯学習センター)	自ら学び、主体的に生きる力を う放送・視聴覚を考えよう。	東京学芸大教授 多田 俊文	70
	10.30	新田郡新田町立 綿打小・綿打中	自ら学ぶ児童・生徒の育成を めざした教育機器の活用	NHK 日本語センター 小池 勇	250
3	8.3	(前橋市・県生涯学習センター)	新しい時代に向かい、豊かな心 と学ぶ力を育てる放送・視聴覚教 育を進めよう。	NHK 放送文化研究所 飯森 彦	100
	11.24	佐波郡赤堀町立 赤堀小・赤堀中	学習意欲を高める教育機器の活 用	NHK 前橋放送局 玉谷 邦博	250
4	11.24	藤岡市立 平井小・小野中	身につく 授業の実践 ～教育機器の活用を通して～		300
5	10.19	沼田市立 升形小学校 沼田南中学校	豊かな心と自ら学ぶ力を育てる 教育機器の活用	実践発表 桐生市立川内南小 塩入栄美子	250
6	11.11	「関プロ群馬大会」 前橋市立 若宮小・城南小 第一中・第五中	新しい時代に向かい創造力、意 欲的に学ぶ力を育てる放送・視聴 覚教育のあり方を求めよう。 ～放送・視聴覚教材の効果的な活 用を通して、豊かな心と自ら学ぶ 力を育てよう。～	デ・プ・スペクタ ー 「天声外人語おもしろ 辛口日米比較ト ーク」	2721
7	8.7	県立図書館	NHK 学校放送番組製作者との意 見交換会	NHK 学校放送番組部 チーフディレクター 華山、荒木 実践発表	30
	10.25	邑楽郡大泉町立 北小・北中学校	主体的に学ぶ児童生徒を育てる 視聴覚機器の活用	館林市立第一中学校 新井 慎一	150
8	11.7	高崎市立 佐野小学校 寺尾中学校	主体的に学ぶ児童生徒を育てる 視聴覚教育機器の活用	実践発表 群馬郡榛名町立第 二小学校 鈴木 映二	200

年	月 日	会 場	研 究 主 題	講 師	参加 人数
9	8 . 4	県立図書館	自作教材の作製と問題点	提案者 赤城南中学校 狩野 俊輔	25
	10 . 30	孺恋村 東小学校 西中学校	自ら学ぶ児童・生徒を育成する視 聴覚教育の推進 (指導に活かす視聴覚教材と機器 の活用)	実践発表 長野原町立中央小 学校 山野 悟 高山村立高山中学校 林 洋一	80
10	8 . 4	前橋市総合教育 プラザ	「インターネットの教育的利用法」	指導者 前橋市立萱桂中学校 上原 永護	70
	10 . 27	大間々町立 福岡西小学校 大間々中学校	主体的に学ぶ児童・生徒を育成す る視聴覚教育の推進 ～学習場面を中心とした効果的な 視聴覚教材と機器の活用～	実践発表 桐生市立北小学校 田川 昇 -	100
11	8 . 5	前橋市総合教育 プラザ	「インターネットの教育的利用法」 ホームページを使った教科学習 の方法等	指導者 前橋市立桂萱中学校 上原 永護	80
	11 . 11	伊勢崎市立 南小学校 第一中学校	自ら学ぶ児童・生徒を育成する視 聴覚教育の推進 ～よさを生かす効果的な視聴覚教 材や機器の活用～	実践発表 伊勢崎市立三郷小学 校 関口 林太郎	100